

Title	Causes of death in Japanese patients with atrial fibrillation: The Fushimi Atrial Fibrillation Registry( Abstract_要旨 )
Author(s)	An, Yoshimori
Citation	Kyoto University (京都大学)
Issue Date	2020-01-23
URL	<a href="https://doi.org/10.14989/doctor.r13302">https://doi.org/10.14989/doctor.r13302</a>
Right	全文公表データが著者最終稿となり、以下が出版されている論文の情報とリンク先である。 The version of record [Eur Heart J Qual Care Clin Outcomes. 2019;5:35-42] is available online at: <a href="https://doi.org/10.1093/ehjqcco/qcy033">https://doi.org/10.1093/ehjqcco/qcy033</a>
Type	Thesis or Dissertation
Textversion	ETD

京都大学	博士（医学）	氏名	安 珍守
論文題目	<b>Causes of death in Japanese patients with atrial fibrillation: The Fushimi Atrial Fibrillation Registry.</b> (日本の心房細動患者における死因：伏見心房細動レジストリ)		
(論文内容の要旨) <p>【背景】心房細動（AF）による脳卒中のリスク上昇は広く知られているが、一方で全死亡（all-cause death）のリスクも上昇する。また死因自体は、患者の年齢を含めた背景因子や、居住地域と時代によっても異なる、とされる。AF患者は社会の高齢化が特に急速に進むアジア地域において急増しているが、そのような地域において、現代の実臨床における、AF患者の死因に関する研究は限られている。そこで、本研究の目的は、伏見 AF レジストリにおいて、死因を記述して、all-cause death、心血管死（CV death）と非心血管死（non-CV death）のそれぞれに関連する因子についても探究すること、とした。</p> <p>【方法】伏見 AF レジストリは人口 28 万人余の京都市伏見区の 81 施設の医療機関における AF 患者の登録研究である。登録基準は心電図やホルター心電図にて AF が検出されることのみ、として除外基準は設けていない。2011 年 3 月の登録開始以降、フォロー中に死亡した症例と、生存した症例の患者背景を比較して、死因についても調査した。さらに、74 歳以下、75 歳から 84 歳、85 歳以上の 3 群に分けて、背景と死因についても探究した。また死因については、CV death、non-CV death に分類して、all-cause death, CV death, non-CV death に関連する因子について多変量解析を用いて探究した。</p> <p>【結果】2016 年 7 月までに 1 年以上のフォローが得られた 4,066 例の中で、登録時のデータが得られなかった 21 例を除外して、4,045 例について死因を調査した。平均年齢は 73.6 歳。抗凝固薬内服率は 54%であった。中央値 1,105 日の観察期間中、705 例の全死亡を認め、年間の死亡イベントの発症率は 100 人年あたり 5.6 であった。CV death が 180 例（25.4%）である一方で、non-CV death は 381 例（54.3%）、原因不確定が 144 例（20%）であった。CV death の中で多い原因は心不全（14.5%）、non-CV death の中で多い原因は悪性腫瘍（23.1%）、感染・敗血症（17.3%）であった。一方で、脳卒中による死亡は 6.5%のみであった。74 歳以下、75 歳から 84 歳、85 歳以上の 3 群いずれにおいても、all-cause death に占める CV death の割合は 25%前後であった。年齢が高くなるにつれて、特に感染による死亡と、原因不確定の割合が増加した。CV death の独立した予測因子の中で強く関連する因子は、心不全既往（ハザード比：2.42, 95%信頼区間：1.66-3.54, <math>p &lt; 0.001</math>）であり non-CV death については、貧血（ハザード比：2.84, 95%信頼区間：2.22-3.65, <math>p &lt; 0.001</math>）であった。</p> <p>【結語】日本のある地域の AF 患者コホートにおいて、CV death の主な原因は脳卒中ではなく、心不全であった。Non-CV death の原因は主に悪性腫瘍と感染であり、all-cause death の半分以上を占めた。CV death と non-CV death が関連する因子は、異なっていた。死因に関する本研究の結果は、AF 患者の予後改善のためのアプローチを検討するうえで重要であると考えられる。</p>			

(論文審査の結果の要旨)

本研究は日本の多施設コホートレジストリを用いて、AF 患者の死因を調査し、予後の関連因子について解析したものである。

4,045 例について死因を調査したところ、中央値 1,105 日の観察期間中、705 例の全死亡を認め、年間死亡率は 100 人年あたり 5.6 であった。心血管死が 180 例（25.4%）、非心血管死は 381 例（54.3%）、原因不確定が 144 例（20%）であった。心血管死の中で多い原因は心不全（14.5%）、非心血管死の中で多い原因は悪性腫瘍（23.1%）、感染・敗血症（17.3%）であった。脳卒中による死亡は 6.5%のみであった。高齢になるほど、特に感染による死亡と、原因不確定の割合が増加した。心血管死に強く関連する因子は、心不全既往であり、非心血管死については、貧血であった。観察研究であり、背景因子の調整が十分ではない点、実臨床で死因を確定することが難しい点などが制約であるものの、日本のある地域の AF 患者のコホートにおいて、心血管死の主な原因は脳卒中ではなく、心不全であることが示された。また非心血管死の原因が全死亡の半分以上を占めていて、心血管死と非心血管死が関連する因子は、異なっていた、という結論が得られた。

以上の研究は高齢化がすすむ日本の実臨床における心房細動患者の予後と死因の解明に貢献し、心房細動患者の予後改善を目指すうえで治療指針に寄与するところが多い。

したがって、本論文は博士（医学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお、本学位授与申請者は、令和 元年 12 月 19 日実施の論文内容とそれに関連した研究分野並びに学識確認のための試問を受け、合格と認められたものである。

要旨公開可能日： 年 月 日 以降